http://www.okayama.med.or.jp/activity/kaihou.html

岡山県医師会女医部会報

第29号
2020.2.25

岡山県医師会
〒700-0024
岡山市北区駅元町19番2号
TEL 086-250-5111
FAX 086-251-6622
mail:
oma@po.okayama.med.or.jp

INDEX

p1　ピンクリボン岡山2019の活動
p2　令和元年度日本医師会女性医師支援センター事業中国四国ブロック会議の報告
p3　第10回岡山MUSCATフォーラム
p4　令和元年度女性医師支援担当者連絡会
p5　山陽女子ロードレース救護班に参加して
p6　第2回天晴れおかやま 女性医師リーダー養成ワークショップ「ゆっくりでも良い、指導医になろう」
p7　シリーズ女性医師支援 岡山県健康づくり財団附属病院における女性医師サポート[岡山県健康づくり財団附属病院]

ピンクリボン岡山2019の活動

渡辺病院／岡山県医師会女医部会委員　溝尾 妙子

ピンクリボン運動とは乳がんの「早期発見・早期診断・早期治療」の大切さを世界の女性たちに伝える運動です。10月はピンクリボン月間であり、私たち岡山県医師会女医部会も乳がん検診の啓発に参加しました。

まず、2019年10月14日（月）に「ピンクリボン岡山フェスタ」がイオンモール岡山で開催されました。1階中央の大スペースに企業、団体、患者会など13のブースが出展し、イオンモール開店と同時にパーソナルカラー診断、乳がん触診モデル体験などのイベントが各ブースで行われました。実行委員会のブースでは、ピンクリボンバッジやマスキングテープなどのピンクリボングッズを販売しました。各ブースともに工夫をこらして乳がんの知識と検診の普及をアピールしました。買い物の合間に大勢の方が立ち寄り、皆さん興味津々な様子でした。夕方17時からは、同じ場所で県民公開講座が行われました。倉敷成人病センター放射線技師の平田美夏氏による乳がん検診の講演、岡山県健康づくり財団管理栄養士の豊田加奈子氏による食事療法の講演、パソナ岡山の萩原梓氏によるヨガ体操、岡山大学病院乳腺・内分泌外科の河田健吾先生と突沖貴宏先生による○×クイズが行われました。約100人が参加し熱心に聞いていました。

実行委員会ブース

県民公開講座

また、同日、マンモグラフィ検診車による無料検診が行われました。70名の予約枠があっという間に定員に達し、関心の高さが伺われました。

そして、第4回ピンクリボン岡山チャリティーコンサートが岡山県医師会館で開催され、「笛トリオアラカン＋ワン」「四季の里バンド」「Forest Endo」「研修医バンド」「岡山市医師会軽音楽同好会」「岡山県医師会JAZZ BAND」と、研修医からベテラン医師まで幅広い世代のグループが出演し、様々なジャンルの演奏が繰り広げられました。約160名が来場し大いに盛り上がりました。

チャリティーコンサート

ピンクリボン一色に染まった1日となりましたが、若者から年配の方まで幅広い世代の方々が参加され、乳がんに関心を持っていただいたと思います。

今後も、乳がんの知識普及と検診受診の推進のために、ピンクリボン岡山にご協力よろしくお願いいたします。

令和元年度日本医師会女性医師支援センター事業 中国四国ブロック会議の報告

岡山赤十字病院／岡山県医師会女医部会副部会長　渡辺 恭子

女性医師支援センター事業・中国四国ブロック会議が11月10日（日）ホテルグランヴィア岡山で開かれました。

まず日本医師会の平川常任理事から、女性医師支援センターの運用実績報告があり、求職登録者は2018年に301名と2年前の6倍になり、就業成立も204件と増加し、今後は全国規模で連携して女性医師に限らずシニア医師の就業仲介や医業の承継支援への事業展開を図り、国に対し院内保育・病児保育の充実へ向けての予算請求、就業・復職支援・キャリア継続支援事業等に力をいれるとのことでした。

研修指定病院における院内保育：病児保育：病後児保育の整備に関しては、鳥取県（100％：50％：62.5％）、島根県（87.5％：37.5％：37.5％）、岡山県（87.5％：62.5％：43.8％）、広島県（91.7％：33.3％：33.3％）、山口県（86.7％：33.3％：20％）、徳島県（66.7％：11.1％：22.2％）、香川県（80％：50％：30％）、愛媛県（87.5％：37.5％：25％）、高知県（100％：25％：25％）と院内保育は充足するも「病児・病後児保育」に関しての遅れが問題です。

鳥取大学医学部附属病院の病児保育室「とりっこハウス」の年間利用226件中医師の利用が半数あり、サービス利用料の補助もあるとのことです。岡山県では岡山大学病院に「ますかっと病児保育ルーム」が設置されており、県医師会も託児支援事業として託児補助金制度があります。山口県は保育サポーターバンク（登録84名）を作り、突発的対応（病気・お迎え）もされるとのことでしたが、広島県はファミリーサポートの取り組みをしているがなかなか進まないとのことでした。徳島県は大学・民間のファミリーサポートセンター利用への補助、迎えと代理受診する制度や保育料金等の割引があります。香川県は香川大学の場合は附属病院への受診に付き添い代行があり、民間のファミリーサポート制度やホームヘルプサービスの利用があります。愛媛県は病児・病後児保育送迎サービスやファミリーサポートセンターの利用に補助があり、高知県は民間のファミリーサポートセンターの利用があります。

男女共同参画における医師会と大学との連携に関しても各県とも研修会やセミナー、また懇談会・情報交換会を開き、子育て支援だけでなく「おイネ事業」や「天晴れジョイボスアワード」等のキャリアアップや、女性医師に限らずシニア医師の就業仲介等で医師確保と働き方改革を目指しているとのことでした。

第10回岡山MUSCATフォーラム

渡辺病院／岡山県医師会女医部会委員　溝尾 妙子

2019年11月17日、岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT主催で第10回岡山MUSCATフォーラムが、「わたしが輝く、あなたが輝く」をテーマに開催されました。

まず、山内英子先生（聖路加国際病院 副院長/乳腺外科部長/ブレストセンター長）と山内照夫先生（聖路加国際病院 腫瘍内科部長/オンコロジーセンター長/がんゲノムセンター長）ご夫妻がご講演されました。山内英子先生は、聖路加国際病院初の女性外科医としてキャリアをスタートし、結婚・出産後に夫の照夫先生の留学に伴い渡米し、15年にわたり乳がんのリサーチを行い、2009年に帰国して現職に至ります。輝かしいキャリアの裏で、留学中にはキャリアや家事・家庭の苦労もあり、夫婦で支え合った道のりをお話しされました。特に、お子さんに変化があったときに一時的に医療現場から離れる決断をしたというエピソードには心を打たれました。山内照夫先生は、聖路加国際病院内科チーフレジデント、東京慈恵会医科大学医学部研究専攻生を経て、家族と共に米国留学されました。ご夫婦の出会いから経時的にご夫婦の歩みをお話しされ、留学中の紆余曲折についてもユーモアを交えて語られました。医師夫婦の男性医師の視点からのお話しに、参加した女性医師も男性医師も勇気づけられました。

お二人とも、お互いのキャリアを尊重しながら、家庭と育児を協力し合い、それぞれのその時の職場環境、家庭の状況に応じて2人で柔軟に対応しながら歩まれている姿に、参加者は感銘を受けていました。

フリーディスカッションでは「外科のキャリア」「男性医師」「育児」「人生」など話した分野に分かれて自由に意見交換を行い、どの分野も時間が足りないほど盛り上がりました。ゲストコメンテーターの服部祥子先生（大阪人間科学大学 名誉教授）からは「自分がこの道とみつけたものはどんなに細くてもいいから歩き続けること」など、多くの力強いアドバイスをいただきました。

最後に若手医師奨励賞の表彰があり、今回は2名の泌尿器科医師が受賞されました。

女性医師、男性医師、学生、研修医、指導医など様々な立場の医師が参加され、互いに意見交換もでき大変実りある会でした。

令和元年度女性医師支援担当者連絡会

岡山市総合医療センター　岡山市立市民病院／外科　竹原 裕子

日　時：令和元年12月8日(日)
会　場：日本医師会館　大講堂

日本医師会、医学会連合からの報告、医学会・大学医学部・都道府県医師会の各2か所より事案紹介が行われました。

1. 日本医師会女性医師支援センターの取り組み

〈日本医師会女性医師支援センター
センター長　今村聡先生〉

女性医師バンクの実績は増加しており、全国的な連携が求められています。医療機関にとっても「費用不要」などメリットの高いことが伺えました。

2. 病児・病後児保育および
いわゆる学童保育に対する支援の現状

〈日本医師会常任理事　平川俊夫先生〉

国の要綱・自治体事業と実態の乖離など、医師会から内閣府へ働きかけている内容について説明されました。

女性医師支援に関するアンケート調査

〈日本医師会女性医師支援センター参与
上家和子先生〉

若手女性医師は増加傾向にあり、各学会代議員は増加する見通しであること。一方で、女性の活躍には家庭内の男女共同参画の重要性を示唆されました。

3. 男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関する調査結果

〈日本医師会連合男女共同参画等検討委員会
委員長　名越澄子先生〉

学術集会会期中に子連れで来やすいイベントの企画も求められることを指摘されました。

4. 各団体の取り組みから

・大分大学医学部：
副学長　松浦恵子先生

女子学生へのキャリアパス相談会、大学病院内の病児保育、イクメンパパの会などの紹介がありました。

・帝京大学医学部：
皮膚科学講座主任教授
多田弥生先生

女性比率向上、エビデンス構築、研究者のためのキャリアカフェの開催といったポジティブアクションの奨励や、復帰支援のために授乳スペースを設けるなどの取り組み、介護準備セミナーなど今後必要になる支援を前提とした取組の紹介がありました。

・日本腎臓学会：
東北大学　宮崎真理子先生

「学会参加を推奨し、キャリアを途絶させない」「メンターやブースを設け、孤立を防ぐ」「子育て支援に特化しない、ダイバーシティへのシフト」など、多様な専門科で構成された学会の取組の紹介がありました。

・日本核医学会：
京都医療科学大学
大野和子先生

女性会員の交流の会があり、学会参加できない理由を会員に伺っているとのことでした。

・川崎市医師会：
副会長　片岡正先生

川崎市と医師会の連携により、病児保育施設を充実させているとのことでした。

・山口県医師会：
副会長　今村孝子先生

医師会の保育サポーターバンク事業について紹介がありました。

質疑応答では、それぞれの制度に関する問題を中心に活発な議論が行われました。今後も検討すべき問題が多いことを考えさせられました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

山陽女子ロードレース救護班に参加して

永山眼科クリニック／岡山県医師会女医部会委員　永山 順子

師走とは思えない暖かな日差しの降り注ぐ12月15日日曜日、第38回山陽女子ロードレース大会が岡山シティライトスタジアムで開催されました。例年12月23日の天皇誕生日に執り行われていましたが、今年から元号が令和に代わり天皇誕生日も移動したため日曜日の開催となった模様です。

この大会の救護班への参加は2回目です。坂口先生、深田先生、松香先生、清水先生と5人でサポートさせていただきました。

スタジアム正面玄関に向かって左側が県医師会女医部会のテントです。ここは、乳癌検診の啓蒙活動を行う拠点で、この日の目標は乳癌検診啓発パンフレット200部を配布することでした。主に応援に来ている女性を対象に、大会が始まる前から、正面玄関前の広場やスタジアム内の観客席も回り、積極的に配って歩きました。大会が開催でき、こうして応援に来ることが出来るのも平和で健康だからこそ。いつまでも続きますように、そしてその為にも是非検診をとの思いを込め、一人一人に手渡しました。たくさんの方が快く受け取って下さいました。しかし、子供さんを抱っこしている方、パンフレットが入るサイズのバッグを持っていない方などにはお断りされることも。パンフレットは透明なビニール袋に入っていましたが、持ち手があるタイプにすればより受け取ってもらえるのではないかと提案がありました。

そうこうしているうちに有森裕子杯ハーフマラソンのスタートを知らせる号砲が。15分後には人見絹枝杯陸連登録者10㎞ロードもスタート。応援の人々もランナーに伴ってスタジアム内から総合グランド内の沿道へと流れて行きます。私達も一緒に移動しながら更に活動を続けます。スタジアム内の医務室の方は深田先生が中心となり万一に備え待機して下さいました。し

かし、さすが上級者ランナーの大会です。膝痛を訴え棄権したランナーが1人搬送されただけで、急を要する処置が必要な症例はなかったとのことです。

大会も無事終了し、表彰式で入賞された市民ランナーに女医部会からの賞品を手渡しました。皆さん晴れやかな清々しい表情をされていて、こちらまで爽快な気分になりました。しばらくランニングから遠ざかっていた私もまた走りたいと思った瞬間でした。

第2回天晴れおかやま 女性医師リーダー養成ワークショップ「ゆっくりでも良い、指導医になろう」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　地域医療人材育成講座／助教　**渡邉 真由**

2019年12月15日に第2回天晴れおかやま 女性医師リーダー養成ワークショップ「ゆっくりでも良い、指導医になろう」が開催されました。女性医師のキャリア形成にご尽力されている医師会、行政、大学病院から様々な職種の方々、および研修医から専攻医、指導医の先生方にもご参加いただきました。

川中美和先生

川中美和先生（川崎医科大学総合内科学2 准教授）が栄えある第2回天晴れジョイボスアワード大賞を受賞され、「女性医師であり続けること」についてご講演いただきました。女性医師のみならず、働く女性を取り巻く現在の問題点を示され、留学などご自身の経験を交え、女性医師のキャリア形成において指導者やメンターの重要性をお話しいただきました。若い先生方に向けた川中先生の応援メッセージが強く伝わってくるお話で、このメッセージを当院でも伝えていきたいと感じました。

三好智子先生

三好智子先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科附属医療教育センター 助教）は天晴れジョイボスアワード奨励賞を受賞され、「自分らしく生きよう～医療とマインドフルネスと私～」と題してご講演いただきました。医学教育を通して影響を受けられた多くの先生方との出会いや、マインドフルネスなど自身としっかり向き合う方法、相手を知ることの重要性を教えていただきました。マインドフルネスの方法として3-minute breathing exerciseもご教示いただき、自分自身がすぐに実践しようと思う、素敵なお話でした。

中谷祐貴子先生

中谷祐貴子先生（岡山県保健福祉部 部長）が天晴れジョイボスアワード特別賞を受賞され、非常に貴重な医系技官の業務やこれまでのご自身の経験を、「行政機関の医師の仕事」と題してお話いただきました。WHO での global な働き方から、世界の女性の働き方および働くことの概念、医系技官として国内で行ってこられた業務など、普段拝聴することのできない非常に興味深いお話でした。

受賞講演の後に受賞された先生方を交え、ある復職された女性医師の caseを基に、指導医として、同僚・後輩として、当事者として、この女性医師が勤務を継続し、指導医となるにはどういった支援が必要かを考える、グループワークを行いました。各グループで活発な討論が行われ、有効な解決策を立案することができ実りあるものとなりました。

グループワーク

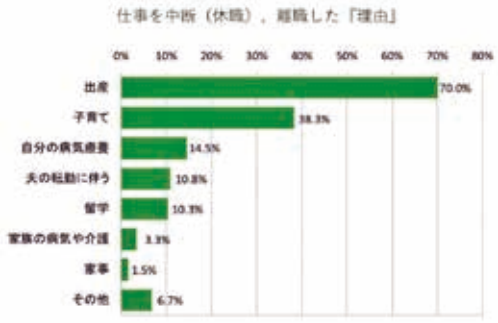
この場をお借りして、受賞された先生方や、ご参加いただいた先生方、他職種の方々に深謝申し上げます。女性医師が指導医を目指し、自身のキャリアを形成することを支援するという素晴らしい主旨であるこの会が今後も益々発展し、続いていくことを祈念しております。

シリーズ
女性医師支援
病院での
取り組み
第23回

岡山県健康づくり財団附属病院における女性医師サポート

岡山県健康づくり財団附属病院　院長　西井 研治先生

平成28年12月31日現在における全国の医師数は319,480人で、女性医師は67,493人(21.1%)となっています。超高齢化社会を迎えようとしているわが国にとって、女性の男性と変わらない活躍が不可欠であり、医療現場においてもまったく同じ状況です。当院では8人の医師のうち5人を女性医師が占め、しかも4人が子育て中です。その力は病院機能維持のために力強い存在です。男女雇用機会均等法に従って女性の出産・育児休業の取得促進やキャリア継続などの制度を整えていますが、具体的に女性医師の産休・育休中のキャリア維持をどうやってサポートしていくかはまだまだ問題があると考えています。働く女性の立場で一つ一つの問題を解決していく必要があり、そのためには当事者の意見に耳を傾け、できることから対策をとっていかなければなりません。なお厚生労働省が平成27年に発表した「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会報告書」を参考に、院内で議論を積み重ねてきた成果であることを記しておきます。



一般論として男女共同参画社会の実現のための女性支援策として、以下のような点が指摘されており、それにそって当院の取り組みを述べます。

①物理的支援

育児支援、保育所の整備、テレワーク(在宅勤務)制度、学童保育の充実、休業中の給与・代替要員確保等

②心理的支援

マタニティ・ハラスメント撲滅、「産後うつ」のケア等

③社会的支援

ワーク・ライフ・バランスの推進、男女ともに人間らしい生活を送れる社会への変革

物理的支援は主に国や行政が担う問題が多いと思われますが、勤務中の育児支援や院内保育所の整備などは、当院でも取り組まなければならない課題です。しかし、規模の小さい当院のような医療施設で独自の保育施設を設置するのは極めて困難で、近隣の保育施設との協力体制を築くことで対処しています。しかし、病院に近接する病児保育施設はないため、発熱など急な疾患発症時には、勤務日であっても休暇が取りやすいような人的配置をしています。具体的には外来や検診の診察を誰かがバックアップできるような勤務表にしており、場合によっては勤務中の数時間の院外への外出も、当日簡単に取れるようにしています。産前・産後休業中の給与は、労働基準法や健康保険法に準拠して健康保険から賃金の3分の2程度が支給されていることが多いのですが、当院では特別休暇扱いで給与全額を支給しています。子供の看護休暇も有給で時間単位取得可能にしています。子育て中の女性医師に気兼ねなく休暇を取りやすい体制をとると共に、管理職および男性職員に対して、母性保護の重要性を広報しています。しかし、どうしてもぎりぎりで勤務体制が回っている状況では、女性医師の穴埋めを自分たちがしているという意識になり、②のような心理的負担を女性医師に与えていることは否めず、医師数の十分な

確保がどうしても必要になります。しかし医師不足は当院でも同じで、常勤医師の増員は困難で、それを補うため、岡山大学病院の協力を仰いで、外来勤務医の派遣、当直医師の派遣などに注力しています。

それと同時に③の問題解決も必要で、職場内のすべての医師に対して、医師が果たす社会的役割やプロフェッショナリズムという共通の価値観を基盤として、性別やライフイベントの有無を問わず相互の状況を理解し、必要な医療を安全かつ継続的に提供していくために協力していくということの重要性を認識してもらうよう努めています。また全職員に「職場」と「家庭」の両方において男女がともに貢献していくことを当たり前にしていくという視点を持つように促すため、専門家の講演や勉強会を企画しています。また医療を受ける患者の理解や協力も必要になってくると考え、ポスター等で啓発活動をしています 。

職場全体の理解を促進するために管理者である私が心がけているのは、育児等をしながら働き続ける医師のニーズを理解し、職場の雰囲気作りを進めるとともに、利用可能な制度や社会資源についてすべての職員に周知することです。具体的には、「育児等をしながら働くために配慮を受ける医師」と「それ以外の医師」の両者に目配りしながら、前者に対しては、本人の状況に応じて可能な範囲で、当院において求められる様々な業務、例えば外来、検査、患者支援、健診などを担当してもらい、後者に対しては、業務量に見合った報酬を与えたりするなど、適切な業務配分や給与体系の見直し等 により公平感の醸成にも努めています。

当院の理念である「地域の人びとに安心と信頼を築く医療」を実践するために、あらゆる面で安定した病院であることが必要であり、医師の性別やライフイベントの有無を問わず相互の状況を理解し、必要な医療を安全かつ継続的に提供していくための工夫をたゆまず行っていきたいと思います。

編集後記

2020年いよいよTokyo Olympic yearです。東京2020オリンピック聖火リレーが、岡山県ではわが井原市をスタート地点として、令和2年5月20日より始まります。朝8時に出発し、国道486号線を井原市役所まで走ります。現在のところランナーは未定ですが、あの選手が来てくれないだろうかと密かに楽しみにしています。オリンピック本番を見に行くことは難しそうなので、生きている間にせっかくある自国開催のオリンピックに触れたいと思い、水曜日の朝ですが、外来に間に合うようになんとか沿道応援に駆けつけたいと画策しています。

さて、私は井原市へ嫁に来て四半世紀、江戸時代から続く病院のすみに耳鼻科を新設して20年が経過します。意味がわからず看護師さんに通訳してもらった岡山弁にも慣れ、今ではnative speakerのように岡山弁をしゃべっています。（しかし、患者さんからは時々先生どこ出身?と聞かれます…）

井原市は昔から繊維の街でした。全国的に人口減少の時代、井原市も毎年人口の自然減、市外への流出ともに歯止めがきかず、寂しい話題が多かったのですが、最近、デニムを中心とした街おこしプロジェクトが立ち上がりました。「井原デニムストリート」と名付けられ、井原市中心部の活性化事業計画が進んでいます。今年は明治期の元料亭旅館をホテルに改装しオープンさせ、他にも元酒蔵を利用したカフェなどを整備します。来年には冷泉源を活用した温浴施設もオープン予定です。岡山県の西の端っこ、小さな市ですが、他にも田中美術館や、桜の時期には小田川沿いの井原堤（約2kmも続く桜並木は見事です）、天神峡では夏は川遊び、秋には紅葉とたくさん見所があります。皆さまのお越しをお待ち申し上げております。

令和2年1月19日

井原医師会　小田病院　小田幸江